



教祖百四十年祭

# 晴天の心

立教 186年2月号  
大阪府富田林市寿町 4-9-10  
URL:www.tomiishi.net  
TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



2月19日 中河大教会諭達巡教  
教祖百四十年祭に向けて、諭達が発  
布されましたので、大教会より巡教  
があります。どうぞご参拝くださ  
いますようお願いいたします。

石川分教会長就任奉告祭が、2  
月11日に務められます。  
当日は、大教会長の諭達講話も  
受けさせていただきます。

1月26日本部春季大祭 3年  
千日、教祖百四十年祭に向  
けてのスタートの日となります。

これまでの年祭活動では、御  
本部の様々な普請が行われそ  
れに向けていろいろな活動が行  
われました。ようぼくの集いや  
地方講習会などが開催されま  
したが、今回は行われないと  
のことです。

諭達を拝読すると、形の普請を通してこころの普請を促されてきたのですが、今回は、ひながたの道を求め進めることが大切だと、述べられていると考えられます。教祖50年のひながた。どの場面を指すのかは、実のところ人によって様々だと思います。

1月19日の祭典より、上段の御簾の一部を外しました。  
御簾を新調してからすでに30年近くがたち、傷みが激しくどうしよかと考えていたのですが、石川分教会では、上段を囲むようにつけていた御簾をすべて外されたことがきっかけです。そこで、気になったのが御簾はいつから付けるようになったのかです。今は、ネットで検索すると意外と簡単にいろいろ見つかるのですが、明治24年のおさしずに記載がありました。

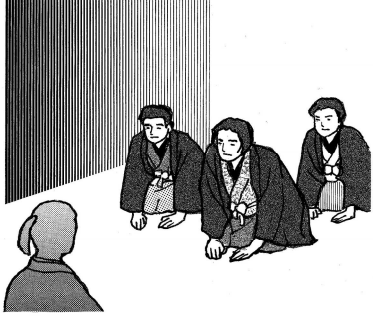
明治二十四年一月七日（陰曆十一月二十七日）  
五年祭に付、教祖の御霊舎を新造御許し願、又御居間へ御簾掛ける事、机の新調の儀併せて御許しの願

さあ／＼尋ねる事情／＼の処、どうしてこうしてと思う。思う処まあ一寸ほんのざっとにして、何程大層する事は要らん。これがきっしょう、どういう事、こういう事思う。何も別段大層の事は要らん。元にひながた通り／＼、変わった事は要らん。一寸前々祀り方どうもならん。社というさしづを以て、ひながた生涯 定め、ひながた通りして諭してくれ。きっしょうの事、これだけ一つ運ぶ。そこで尋ね、尋ね通り日々の処治まり一つ社一寸雛形、この雛形出たものでないで。雛形通り何処まで違わん処／＼、雛形通り治めてある、仮社治めある。風の変わってある違うたひながた。一手ひながた道があれば一手ひながた、振り変えればひながたと言わん。あちらこちら心のひながた出して、ひながた／＼変えて、いかなる理も治

月次祭 2月19日(日) 午前10時～  
婦人会例会 2月9日(木) 午前10時～



石川分教会  
五代会長就任奉告祭・創立百三十周年記念祭  
令和五年二月十一日(祝) 11時開式  
おつとめ(すわりつとめ、よろづよ)  
就任挨拶 石川分教会長 豊田厚子  
諭達講話 中河大教会長 田中善吉  
祭典・講話・記念写真  
新型コロナウイルス感染対策のため会食は行わずお弁当とします



まりあろうまい。日々尋ね、日々諭しよう。これまでふあ／＼というもので心という。この道一つ変わった事すればひながたとは言わん。世上という、風の変ったものは無いか。ひながたとは言わん。

同時、御面を新調する事御許し下されますや、修復をさして頂きますや願  
さあ／＼元々一つ元々尋ね、さしづしよう。古き物は損じてあるなれば仕替えとは言わん。  
要るべき物はそれ／＼拵えにやらん。一寸不足なったらどうもならん。そこで要らざらん事は一つも要らん。

引用以上。

五年祭に教祖の御霊舎を新たに作ることに、お居間に御簾を掛けたいという願いに対して、あくまでひながたをよく見よと説かれる神様（本席）。ご存命で働いておられる教祖の御霊舎は要らない、それはそうだと思います。ただ当時の世間の見方としたら亡くなった人なのだから御霊を祀るところがあるだろうということで、尋ねられたのだと思います。

しかし居間に居られると信じているので、一般的な神社などと同じように、神様の場所として御簾を掛けて仕切りったほうが、世間に合わせることになるからどうだろうと考えられたのでしょう。神様は、ひながたどおりで、変わったものは要らんときっぱり断られている。このおさしづを深考すると、当時の道の先人たちが、政府からの弾圧を回避するために試行錯誤されているが、あくまでも神様は教祖のひながたを指し示す。

そこには神の社となった50年を手本として残してあるという深い信念がある。弾圧を回避するために世上の信仰形式に合わせざるを得なかったのだろうと思う。それが今も残っている一つが御簾なのでしょう。

今回の年祭活動では、ひながたが重要なキーワードになっています。自分自身の事情身上で悩み困ったときは、その思いついた言葉でおさしづや逸話編を検索することで、ひながたを訪ね調べてそれを深く考えることで、必ず解決されることだと思います。



教祖伝逸話篇 123 人がめどか 逸話編を旅する <https://youtu.be/2aLaieZH0Ng>

教祖は、入信後間もない梅谷四郎兵衛に、

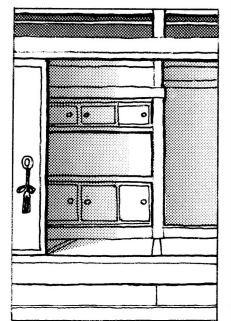
「やさしい心になりなされや。人を救けなされや。癖、性分を取りなされや。」  
と、お諭し下された。生来、四郎兵衛は気の短い方であった。

明治十六年、折から普請中の御休息所の壁塗りひのきしんをさせて頂いていたが、「大阪の食い詰め左官が、大和三界まで仕事に来て。」との陰口を聞いて、激しい憤りから、深夜、ひそかに荷物を取りまとめて、大阪へもどろうとした。

足音をしのばせて、中南の門屋を出ようとした時、教祖の咳払いが聞こえた。「あ、教祖が。」と思ったとたん足は止まり、腹立ちも消え去ってしまった。

翌朝、お屋敷の人々と共に、御飯を頂戴しているところへ、教祖がお出ましになり、

「四郎兵衛さん、人がめどか、神がめどか。神さんめどやで。」  
と、仰せ下された。



陽気チャンネル <https://youtu.be/Aq97M3K06BE>

【特集・おやさま】岩井喜市郎・伊都分教会前会長

「教祖、こちらでございます」

どうしても、おさづけが取り次げない意気地のない自分。

「そうだ。教祖にお出ましいただこう」雨の中、おたすけ先の病院へ、見えない教祖のお供をして向かう講師。教祖を慕う一途な信念が呼び起こす奇跡と感動の体験談を語る。

